

教会旋法

① 中世の音楽論による正式名称及び構造

F=Finalis (主音); R=Tenor/Repercussa (朗唱音)

I. Tonus (Dorisch) ドリア旋法	III. Tonus (Phrygisch) フリギア旋法	V. Tonus (Lydisch) リディア旋法	VII. Tonus (Mixolydisch) ミクソリディア旋法	IX. Tonus (Aeolisch) エオリア旋法	XI. Tonus (Ionisch) イオニア旋法
II. Tonus (Hypodorisch) ヒポドリア旋法	IV. Tonus (Hypophrygisch) ヒポフリギア旋法	VI. Tonus (Hypolydisch) ヒポリディア旋法	VIII. Tonus (Hypomixolydisch) ヒボミクソリディア旋法	X. Tonus (Hypoeolisch) ヒポエオリア旋法	XII. Tonus (Hypoionisch) ヒポイオニア旋法

② 16～17世紀の「賛美歌時代」に便利な単純な教会旋法論

ドリア旋法	フリギア旋法	リディア旋法	ミクソリディア旋法	エオリア旋法 (短調)	イオニア旋法 (長調)

③ 主な転調形

ドリア旋法	フリギア旋法	リディア旋法	ミクソリディア旋法	エオリア旋法 (短調)	イオニア旋法 (長調)
ドリア旋法	フリギア旋法	リディア旋法	ミクソリディア旋法	エオリア旋法 (短調)	イオニア旋法 (長調)
ドリア旋法	フリギア旋法	リディア旋法	ミクソリディア旋法	エオリア旋法 (短調)	イオニア旋法 (長調)
ドリア旋法	フリギア旋法	リディア旋法	ミクソリディア旋法	エオリア旋法 (短調)	イオニア旋法 (長調)
ドリア旋法	フリギア旋法	リディア旋法	ミクソリディア旋法	エオリア旋法 (短調)	イオニア旋法 (長調)